北海道港湾空港建設協会

会報

令和5年9月



No.109

紋別港(写真提供:網走開発建設部 紋別港湾事務所)



北のみなと

No.109

紋別港

紋別港は、オホーツク海沿岸のほぼ中央 部に位置し、昭和28年には紋別港港湾管理 者(紋別市)が設立、昭和50年には重要港 湾の指定を受けました。紋別港の整備は、 大正12年(1923年)、漁港修築に着手して 以来進められ、今年、着工100周年を迎え ました。

現在では、紋別市を核とする網走地域の 北部および上川地域の一部を含む生活、産 業に係わる物流拠点港として発展し、また、 沖合、沿岸漁業の基地として重要な役割を 果たしています。一方、紋別市が策定した 「流氷研究国際都市構想」の中で、流氷都 市拠点地域として位置付けられ、市民や観 光客の憩いの場として多くの利用者が訪れ ています。

2016年12月には木質チップをはじめ、 PKS (ヤシの実の種の殻) 及び石炭を燃料 とするバイオマス発電としては日本最大級 の紋別バイオマス発電所(50MW)が営業 運転を開始し、紋別港は燃料搬入にも利用 されています。

一 目 次一

Report						
- 日本港湾空港建設協会連合会 第40回通常総会開催 ······	1					
受賞						
令和 5 年度 春の叙勲 藍綬褒章受章	2					
令和 5 年度 国土交通省「海の日」海事関係功労者大臣表彰	3					
令和 5 年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	4					
令和 5 年度 北海道開発局優良工事等表彰······	5					
令和 5 年度 北海道開発局港湾空港関係功労者表彰	7					
令和5年度 北海道開発局海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰…	8					
北海道開発局 i-Con奨励賞2023 ·······	9					
令和 5 年度 関係協会表彰······	15					
·(公社)日本港湾空港建設協会連合会会長表彰 港湾功労者賞						
·(公社)日本港湾協会 港湾功労者表彰						
·(一社)日本海上起重技術協会 協会長表彰						
·(一社)全日本漁港建設協会表彰						
·全国浚渫業協会 港湾功労者表彰						
令和 4 年度「土木学会北海道支部技術賞」・「全建賞」受賞	22					
・函館港クルーズターミナル整備事業						
各種記事						
我が社の安全衛生管理						
(㈱菅原組 安全課長 花田 喜一)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24					
Topics						
新たな「北海道マリンビジョン」の策定について						
(北海道開発局 農業水産部 水産課)	26					
Information						
事務局だより・業界だより・広報委員会だより						



日本港湾空港建設協会連合会

第40回通常総会開催

日本港湾空港建設協会連合会は令和5年5月10日、第40回通常総会を開催しました。 令和5年度の事業計画は以下のとおりです。

令和5年度 事業計画

1. 会報の発行

港湾空港関係予算・技術開発等、港湾空港関係の諸情報並びに、会員の意見・要望等を掲載した会報を4回/ 年発行し、会員相互の情報交換を行う。

2. 研修講習会等の開催

港湾空港建設事業の社会的地位の確立と、技術の開発 向上を目的とした講習会および見学会を実施する。

講習会の開催は、春、秋の2回、中堅技術者を対象に 東地区、西地区において実施し、さらに経営者及び幹部 社員を対象に経営者セミナーを東京都において開催する。 また、「独占禁止法・コンプライアンス関係講習会」 を(一社)日本埋立浚渫協会と共催で行う。

4. 調査研究

- ①港湾空港建設業の発展に関する調査研究及び資料の 収集等を行う。
- ②地区連合会技術委員会の活動経費に対して補助を行う。
- ③契約・設計・積算に関する調査研究。
- ④労働・安全・税制に関する調査研究。
- ⑤建設行政に関わる調査研究。

5. 港湾及び空港の整備・振興に関する広報・啓発活動

- ①港湾及び空港の整備・振興に関し、広く社会一般に 理解を得るための広報・啓発活動を行う。
- ②港湾及び空港の整備・振興の必要性を広く国政の場 に反映するため、関係国会議員等の理解を得るため の活動を展開する。

3. 要望及び意見等の発信

- ①港湾空港関係予算及び港湾空港事業に関わる諸課題について、関係方面及び関係機関に対して要望又は意見交換を実施する。
- ②港湾空港建設に係る当面の諸 課題に関する要望や意見交換 を、各地区連合会と共同して 関係機関に対して実施する。
- ③都道府県協会が行う港湾空港 建設に係る当面の諸課題に関 する関係機関との要望や意見 交換を支援、共同して実施す る。



令和5年 春の叙勲

令和5年春の叙勲受章者が発表され、藤建設㈱の藤田幸洋会長が港湾建設業振興功績により、藍綬褒章を受章されま した。

藤田会長は、長年にわたり港湾建設業に従事する傍ら、北海道港湾空港建設協会会長、(一社)日本海上起重技術協 会北海道支部支部長、日本港湾空港建設協会連合会副会長、(一社)日本海上起重技術協会副会長等、多くの港湾関係 団体の役員を歴任され、港湾建設業の振興、発展、後継者の育成に尽力されたことが高く評価されました。



藤建設㈱ 代表取締役会長 藤田 幸洋 氏

生年月 昭和30年3月

***	_	PP 4: 1 P	
学	歴	昭和52年3月	東海大学海洋学部海洋土木工学科 卒業
職	歴	昭和52年 4 月	東亜建設株式会社 入社
		昭和55年 5 月	藤建設株式会社 入社
		昭和62年5月	同上 取締役営業部長
		昭和63年5月	同上常務取締役
		平成3年5月	同上專務取締役
		平成4年5月	同上 代表取締役
		平成13年8月	有限責任会社ワッコル日本代表(~令和3年4月)
		平成21年8月	最北シネマ株式会社 代表取締役会長
		平成24年8月	藤建設株式会社 代表取締役社長
		令和元年8月	同上 代表取締役会長 現在に至る
団体	本歴	平成5年4月	北海道港湾空港建設協会 理事
		平成7年2月	稚内建設協会 理事
		平成9年11月	稚内商工会議所 常任議員(~令和4年10月)
		平成14年4月	北海道港湾空港建設協会 副会長
		平成15年5月	(一社) 日本海上起重技術協会 理事
		平成15年6月	(一社) 日本海上起重技術協会 北海道支部 副支部長
		平成16年6月	(一社)全日本漁港建設協会 北海道支部 副会長 現在に至る
		平成17年5月	全国浚渫業協会 副会長及び北海道支部長(~令和3年5月)
		平成17年5月	稚内建設協会 会長(~令和3年4月)
		令和2年4月	北海道港湾空港建設協会 会長 現在に至る
		令和2年6月	日本港湾空港建設協会連合会 副会長 現在に至る
		令和2年6月	(一社) 寒地港湾空港技術研究センター 理事 現在に至る
		令和3年4月	(一社) 日本海上起重技術協会 支部長 現在に至る
		令和3年6月	(一社) 日本海上起重技術協会 副会長 現在に至る
賞	罰	平成16年5月	日本港湾空港建設協会連合会会長表彰
		平成23年8月	国土交通省北海道開発局長表彰

平成23年10月 農林水産大臣表彰 平成26年7月 国土交通大臣表彰

令和元年7月 国土交通大臣表彰

平成28年5月 (公社) 日本港湾協会会長表彰

令和5年度 国土交通省 「海の日」海事関係功労者大臣表彰

国土交通省の令和5年度「海の日」海事関係功労者大臣表彰のうち、「海をきれいにするための一般協力者」として、今年度、北海道開発局の推薦により、網走セーリング協会"北緯44度"が受章しました。

網走セーリング協会"北緯44度"は網走港内及び周辺海浜において、多年にわたり清掃活動を行い、港内の環境美化に 貢献したことから受賞されたものです。

表彰伝達式は、7月26日 網走開発建設部において開催され、草薙網走開発建設部長から表彰状が授与されました。





RH113/H0

h/Ho'

令和5年度 漁港漁場関係事業優良請負者 表彰

水産庁の令和5年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰として(㈱森川組(本社:函館市 森川基嗣代表取締役社長(現会長))が農林水産大臣表彰、(㈱吉本組(本社:岩内町 吉本貴昭代表取締役社長)及び(㈱富士サルベージ(本社:函館市 須田新崇代表取締役)が水産庁長官表彰を受賞しました。

本表彰は漁港漁場関係事業への理解を深めるとともに、漁港漁場建設技術の向上を図り、漁港漁場関係事業の円滑な実施に資することを目的として、他の模範に足る功績を残した請負者を表彰するものです。

表彰式は5月11日水産庁において行われました。

【農林水産大臣表彰】



株式会社 森川組 **森川 基嗣** 氏 代表取締役社長(現 会長)

会社概要

本社所在地函館市創業明治25年設立昭和38年資本金9,900万円

【水産庁長官表彰】



株式会社 吉本組 吉本 貴昭 氏代表取締役社長

会社概要

本社所在地岩内町創業昭和23年設立昭和44年資本金3,200万円



株式会社 富士サルベージ **須田 新崇**氏 代表取締役

会社概要

本社所在地函館市創業昭和26年設立昭和26年資本金7,380万円

令和5年度 北海道開発局 優良工事等の表彰



北海道開発局は工事等に係る技術の向上を目的として、前年度に完成した工事及び完了した業務の中から、優秀な成果を収めた企業及び技術者を表彰しております。

今年度は令和4年度に完成した工事1,409件中から局長表彰30件(35社)、各開発建設部長表彰81件(86社)が選定され、工事を実施した企業と、その工事に携わった技術者が表彰されました。

港湾・空港・漁港部門における局長表彰は、①㈱松本組が施工した「函館港西防波堤建設その他工事」 ②渡辺建設工業㈱が施工した「羅臼漁港用地改良その他工事」の2件(2社)が受賞しました。

開発建設部長表彰は、小樽(近藤・勇JV)、室蘭(北興工業㈱、㈱南組)、釧路(真壁建設㈱、拓殖工業㈱)、網走(㈱西村組)、留萌(ハラダ工業㈱)及び稚内(安田建設㈱)が受賞しました。

なお、局長表彰式は7月26日に開催されました。また、開発建設部長表彰式は各開発建設部において開催されました。

─港湾・空港・漁港部門における受賞工事─ (北海道開発局長表彰)

○工事名:函館港西防波堤建設その他工事

発注者:函館開発建設部

施工者: ㈱松本組

技術者:



佐々木 誠氏



(表彰理由)

本工事は、潮位・風速のリアルタイム観測等の安全対策を実施するとともに浚渫土改良・材料搬出岸壁においては 岸壁と土運船の空間をシート養生するなど環境対策を行いました。また、港内利用船舶との調整が求められた状況下 において、工事終了後に必要な水路補正測量が年度内に可能となるよう適切な工程管理を実施しました。

さらに、防波堤上部工においては、撤去時の静的破砕・分割段階施工やプレキャスト部材活用等の創意工夫により、施工中の防波堤機能を可能な限り確保する対策を実施し、既設本体工の損傷リスクの低減、上部工の品質向上及び工期短縮に寄与するなどのほか、港内漂流物回収・処分によって一般航行船舶の事故防止に貢献するなど、他の工事の模範となることから表彰されました。

○工事名:羅臼漁港用地改良その他工事

発注者:釧路開発建設部 施工者:渡辺建設工業(株)

技術者:



山白 道敏氏



(表彰理由)

本工事は、漁業活動への影響を極力避けるため工期が限られ、さらに厳冬期となる中で、施設を供用しながら施工する必要がありました。これらの課題に対し、漁業関係者等と緊密に工程調整するとともに、除雪シートを用いて除雪時間の短縮や埋設物を保護した他、プレキャスト部材の活用による施工の効率化、ICT技術を用いての工事の省力化にも努めました。これらの取組により、4週8休を確保するとともに、工事従事者の労働環境の改善にも努めました。また、沈砂池の設置による濁水発生抑止を図り、周辺環境に配慮した施工を行いました。

以上、種々の取組みが他の工事の模範となることから表彰されました。

【各開発建設部長表彰】

〇工事名:小樽港-10m岸壁改良その他工事

発注者:小樽開発建設部 施工者:近藤・勇経常JV

技術者:藤原 真一氏(近藤工業㈱)、

渡邊 大輔氏(勇建設株)

〇工事名:登別漁港-3.0m岸壁B部改良

その他工事

発注者:室蘭開発建設部 施工者:北興工業㈱

技術者:大山 晃朗氏

○工事名:様似漁港船揚場改良その他工事

発注者:室蘭開発建設部

施工者:㈱南組

技術者:上田 剛伯氏

〇工事名:霧多布港外1港北防波堤改良

その他工事

発注者:釧路開発建設部

施工者:真壁建設㈱ 技術者:中村 誠氏

〇工事名:大津漁港南防波堤改良その他工事

発注者:釧路開発建設部施工者:拓殖工業㈱ 技術者:小松 浩 氏

〇工事名:サロマ湖漁港外1港

アイスブーム補修その他工事

発注者:網走開発建設部

施工者:(株)西村組

技術者:加藤 康徳氏

〇工事名: 苫前漁港東外防砂堤建設工事

発注者:留萌開発建設部施工者:ハラダ工業㈱ 技術者:山下 修平氏

〇工事名: 枝幸港南防波堤改良その他工事

発注者:稚内開発建設部施工者:安田建設㈱ 技術者:山下 安広氏

^{令和5年} 北海道開発局 港湾空港関係功労者表彰

北海道開発局は7月25日、札幌第1合同庁舎において、令和5年「港湾空港関係功労者表彰」の表彰式を行いました。 本表彰は、港湾空港整備事業の推進を目的として、港湾空港関係の業務等に関し、多大な功労があった方々を対象に 実施しています。

今年は港湾の振興や整備を通じて地域の発展に尽力され、本年4月19日、ご逝去された前羽幌町長駒井久晃氏(故人)及び港湾関係の建設事業の経営責任者として、港湾工事の推進と発展に尽力された三協建設株式会社(留萌市)の代表取締役堀松秀樹氏が受賞されました。

前羽幌町長(故人) 駒井 久晃 氏

略 歴:平成7年 羽幌町議会議員

平成26年11月 羽幌町長 令和5年4月 逝去



羽幌町ホームページより

三協建設株式会社 代表取締役 堀松 秀樹 氏

生年月:昭和42年2月

略 歴:平成3年4月 三協建設株式会社 入社

平成16年2月 同社 取締役

平成17年2月 同社 常務取締役 平成18年2月 同社 代表取締役

現在に至る



令和5年度 北海道開発局 海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰

北海道開発局は7月25日、札幌第1合同庁舎において、令和5年度「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」の表彰式を行いました。

本表彰は、海の利用・開発、海洋環境保全に対する国民の理解と協力を得て、海洋・海事思想のより一層の普及に資することを目的としています。

今年度は以下の3団体が受章しました。(写真は北海道開発局HPより)

①Canal Clean Team (小樽市)

Canal Clean Teamは、平成23年設立れ、毎週土曜日に小樽運河の清掃活動を行っており、観光客や市民が快適に散策できる環境づくりに貢献しています。





②株式会社 西村組(紋別郡 湧別町)

株式会社 西村組は紋別港の海浜公園周辺の清掃を平成20年度から延べ27回実施しています。また、令和2年度からは「みなとの花いっぱい運動」にも参加し、漁港区周辺の植栽も実施しました。このように紋別港を憩いの場として市民や観光客が快適に利用できる環境づくりに貢献しています。





③藤建設 株式会社(稚内市)

藤建設株式会社においては稚内港フェリーターミナル周辺の清掃を平成20年度から15年にわたり実施しており、市民や観光客が快適にフェリーを利用できる環境づくりに貢献しています。





北海道開発局 i-Con奨励賞2023

北海道開発局においては北海道におけるインフラDX・i-Constructionの普及促進を図ることなどを目的として、前年度に完成した工事及び完了した業務の中から、建設現場における生産性向上に資する優れた取組を行った企業を表彰しております。

今年度の表彰は令和4年度に完成した工事及び業務の中から「北海道開発局 i-Con奨励賞2023」が表彰されました。 工事については29件表彰され、港湾部門では5件受賞しました。

表彰式は7月27日北海道開発局において行われました。

以下に各受賞工事の概要を掲載致します。

RH113HO

i-Con奨励賞2023

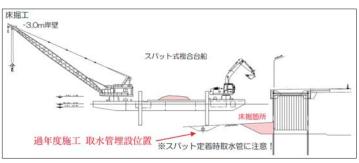
株高木組

砂原漁港-3.0m岸壁建設その他工事でi-Con奨励賞2023を受賞することができました。

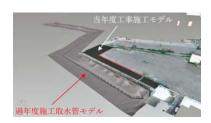
当工事は砂原漁港において水産物の輸出促進及び競争力の強化を図るとともに、大規模災害発生時における水産業の 早期再開を確保するための-3.0m及び-4.0m岸壁の改良工事です。海上地盤改良工(床掘作業)においてマルチビー ムによる三次元測量、GNSSマシンガイダンスシステム搭載バックホウ複合船によるICT施工を行い、水中部の見えな い場所でのバックホウバケットの平面位置・深度をリアルタイムに可視化した出来形管理の効率化や陸上部仮置き土砂 をUAVによる三次元測量を行うなど生産性の向上を図りました。CIMモデルの活用では床掘施工場所付近には過年度 に施工した取水管が水中部の地盤に埋設されており作業船スパット設置により損傷のおそれがあるため、過年度の取水 管と当工事のCIMモデルとを結合させて取水管の位置を把握した損傷防止対策を行いました。また、上部工施工では鉄 筋部材同士の干渉チェックや全体では3Dモデルに時間軸を持たせることで計画工程を可視化し実施工程との検討を行 い、厳しい工期での工期内完成に至ることができました。これからもICT技術の活用に取り組んでまいります。



施工位置図 及び 断面施工概要図



床堀施工概要図(作業船配置付近に過年度施工取水管の埋設あり)



当年度と過年度工事を合算使用した CIMモデル



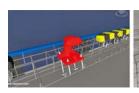
UAVによる3次元測量

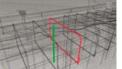


海上地盤改良工におけるICT施工 GNSSマシンガイダンスシステム搭載バックホ ウ複合船による床掘り状況



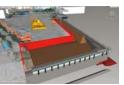
重機オペレーターモニター





CIM活用による上部工 鉄筋干渉チェック





CIM活用による時間軸を付与した4Dモデル作成

i-Con奨励賞2023 受

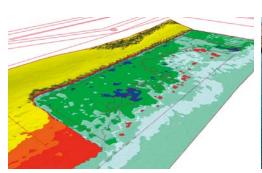
りんかい日産・山口経常建設共同企業体

本工事は、老朽化が進んだ苫小牧西港東防波堤の健全化と機能回復のため上部工の撤去と嵩上を行い、あわせて船舶 の安全航行に必要な水深と幅を確保する航路浚渫を行う工事です。施工場所は大型船を中心に大小さまざまな船が数多 く行きかう航路内と外海と航路を隔てる幅14mの防波堤上です。

施工は品質の確保、作業の安全、船舶航行の安全を第一に、ICT活用による迅速で無駄の無い工事、BIM/CIMを活 用した3Dモデルによる施工手順の認識と確認、高い安全意識の向上のため、都度に施工検討会を開催し、関係者全員 で施工イメージ、危険予知、安全作業の確保、効率化等の議論・情報共有を図り、安全で精度の高い工事となりました。 引き続き品質確保、安全確保、働き方改革等に寄与するICT技術の活用に積極的に取り組んでいきます。

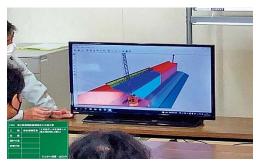


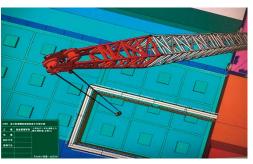
大型船が入出港する航路内浚渫・防波堤工事





ICT施工による迅速で無駄の無い施工





BIM/CIM活用による作業の安全と効率化向上

i-Con奨励賞2023 3

岩倉建設㈱

石狩湾新港 用地護岸建設その他工事が「北海道開発局i-Con奨励賞」を受賞しました。

本工事は、石狩湾新港において鉄スクラップの輸出量増加に伴い大型化する船舶に対応する為、新たに水深-12mの 岸壁を整備する事業の一環として行われました。

施工にあたっては現場条件の制約から短期間での施工が求められたため、関係者との協議や周知に3次元モデルを活 用し工事を円滑に進めることで、工程の短縮や作業性の向上に繋げることができました。

- ・本工事でのICT技術の活用
- 1.鋼管矢板打設時においては、AR技術を応用した杭打誘導システム『ジオモニⅡ』を活用し、同時に2方向からの 画像を視認し施工することで精度の高い施工管理及び作業性と安全性の向上に繋げることができました。
- 2. 導材設置位置や鋼管矢板杭心位置の測定にGNSS測量機を活用し、3Dオペレーターへ測定座標値をメールで転 送、即時3Dモデル化し設計位置との比較図を作成し、現場職員がその3Dモデルデータを視認しながら現場にて 打合せをし施工性の向上に繋げることができました。





ジオモニⅡによる鋼管矢板打設管理



GNSS測量機による鋼管矢板出来形測定



GNSS測量結果による3Dモデル作成





3Dモデルの現場での確認

i-Con奨励賞2023

白崎・機械開発・北興経常建設共同企業体

落石漁港用地改良その他工事が「北海道開発局i-Con奨励賞2023」を受賞しました。当工事は落石漁港の防災対策と して、岸壁後背部の急傾斜地に発生する崖崩れにより崖地直下に堆積した土砂を除去するものです。

施工箇所は急傾斜地の直下に位置し、崖崩れや落石の危険があることから無人バックホウにカメラを取り付け、安全 な場所からの遠隔操作によりモニターにて確認しながら作業を行うことで、作業員の安全確保と施工精度の向上を図る ことができました。

ICT技術の活用として、UAVやレーザースキャナーを用いた3次元測量によりCIMモデルを作成し、現地の細部に わたる地形状況を分かりやすく立体的に表現することで、関係機関との打ち合わせや情報共有において効果的な把握が 得られ、現地作業の手戻り防止や施工ミス防止に寄与し、効率的な実施が図られました。

また、スマートグラス式力メラを遠隔臨場等に活用し、両手が自由に使用可能な状況で作業の安全や効率の向上に効 果的でした。

今後とも積極的にICT技術を活用した施工に取り組みたいと考えております。





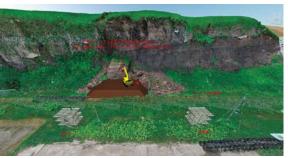
スマートグラス式カメラを活用した 遠隔臨場の実施





カメラを取付けた無人バックホウによる 遠隔操作での転石破砕





UAVやレーザースキャナーを用いた3次元データーの作成

i-Con奨励賞2023 受

㈱濱谷建設

当工事は、土砂処分場を造成するため基礎工、本体工(ケーソン式)など一連とした護岸施工を行うもので、各工程 でICT技術導入とBIM/CIM活用を積極的に行いました。

基礎捨石本均しは、『自動追尾管理システムによる水中捨石基礎均し工法』で均し面の位置や高さをリアルタイム可 視化することでオペレータ熟練度に左右されることなく作業を行うことができました。さらに均し完了面全域をマルチ ビーム測深による3次元点群データから浮石や不足箇所を抽出し潜水士による除去や補充を行うことで釧路港特有の 水中透明度が悪い環境下での作業効率及び品質・出来形精度の向上に繋がりました。

本体エケーソン据付では、ケーソン目地に間詰め水中コンクリートを施工する構造となっており、30cmの目地間隔 を設けて据え付ける構造のため、法線管理に加えて目地間隔を確保できる適正な据付位置にケーソンを誘導する必要が あったことから自動追尾式トータルステーションで測定することにより、据付ケーソンの計画据付位置との相対的なズ レを作業指揮者がリアルタイムに画面で数値的に確認把握でき、的確な指示を送ることができました。

これにより、ケーソン据付時の測定人員の削減とケーソン据付精度の向上・安全性の確保につながりました。





令和5年度

北海道港湾空港建設協会から8名受賞

経営合理化、工費適正化、技術向上、作業効率化及び従業員の労務・厚生の改善等により協会発展に尽くされた功績 により、日本港湾空港建設協会連合会第40回通常総会において、当協会から以下の方々が会長賞を受賞されました。 受賞されました皆様には心からお慶び申し上げます。

代表者表彰



吉本 貴昭 氏 生年月 昭和47年8月 ㈱吉本組 代表取締役社長

略歴

平成10年 (株)吉本組 入社 平成15年 同社 取締役

平成18年 同社 代表取締役副社長 平成28年 同社 代表取締役社長

現在に至る

従業員表彰(順不同)



上島 奉行 氏 生年月 昭和39年1月 ㈱山田組

略歴

昭和61年 (株)山田組 入社 平成9年 同社 工事主任

平成29年 同社 土木事業部工事長

現在に至る



加茂谷 学氏 生年月 昭和38年11月 株西村組 執行役員 安全環境管理部・DX 推進部 担当 経営企画部 研究開発室 部長

略歴

昭和58年 (株)西村組 入社 令和元年 同社 執行役員 現在に至る



菊地 圭一氏 生年月 昭和43年4月 勇建設㈱ 小樽営業所長



平成3年 勇建設㈱ 入社 令和4年 同社 小樽営業所長 現在に至る



沓掛 智也 氏 生年月 昭和46年11月 機械開発北旺㈱ 工事部次長

略歴

平成6年 北海道機械開発㈱ 入社 令和2年 機械開発北旺㈱ 工事部次長 現在に至る



佐々木 英章 氏 生年月 昭和37年2月 白崎建設㈱ 工事課長



昭和55年4月 白崎建設㈱ 入社 平成14年 同社 工事課長 現在に至る



浜谷 亮氏 生年月 昭和45年6月 株計古本組 事業部次長

略歴

平成元年 (株)吉本組 入社 同社 事業部次長 令和5年 現在に至る



藤本 昌彦 氏 生年月 昭和47年3月 ㈱ 菅原組 工事本部工事部次長

略歴

平成4年 (株)菅原組 入社 同社 工事本部工事部次長 令和5年 現在に至る



令和5年度

永年にわたり港湾に関する職務に従事し、功績が特に顕著であること、港湾の管理運営振興、計画設計、施工の各部 門に関して研究、実施等に特に顕著な成果をあげ、他の模範となる方を対象に表彰している令和5年度(公社)日本港 湾協会 港湾功労者に以下の方々が受賞されました。

受賞されました皆様には心からお慶び申し上げます。

北海道港湾協会推薦 (順不同)



白畑 博信 氏 生年月 昭和32年8月 (同) 小樽カナルボート 職務執行者補佐

略歴

昭和55年 小樽市役所

平成23年 小樽市産業港湾部港湾室長

平成30年 (同) 小樽カナルボート 職務執行者補佐

現在に至る



佐々木 勉 氏 生年月 昭和34年7月 新太平洋商事(株) 代表取締役社長

略歴

昭和59年4月 ㈱北海道コンピューターセンター (現 (株)エイチ・シー・シー) 入社

平成24年4月 太平洋石炭販売輸送(株) 移籍

平成25年5月 太平洋石炭販売輸送㈱

取締役事務部長

平成28年5月 (株)栄和サービス 取締役管理部長

平成29年5月 太平洋石炭販売輸送㈱

(現 新太平洋商事(株)) 代表取締役

現在に至る



髙田 勲氏 生年月 昭和11年1月 (有)イリサン髙田漁業

略歴

昭和49年5月 浦河漁業協同組合 理事

昭和52年7月 浦河町港湾審議会 委員

平成15年9月 浦河漁業協同組合 代表理事組合長

代表取締役

平成18年3月 浦河町港湾審議会 会長

平成18年4月 日高中央漁業協同組合

代表理事組合長

昭和63年4月 (有)イリサン髙田漁業設立、

> 代表取締役就任 現在に至る



飯田 誠氏 生年月 昭和36年7月 (一社) 寒地港湾空港技術研究センター

略歴

昭和55年 北海道開発局

平成31年 留萌開発建設部 次長

令和3年 (一社) 寒地港湾空港技術研究センター

第1調査研究部長

第1調查研究部長

現在に至る



矢野 隆博氏 生年月 昭和36年8月 (株)濱谷建設 常務取締役



昭和55年 北海道開発局 令和3年 留萌開発建設部 次長 令和4年 (株)濱谷建設 顧問 令和5年 同社 常務取締役

現在に至る



中山 学之 氏 生年月 昭和37年2月 (株)森川組 技術顧問

略歴

昭和62年 北海道開発局

平成31年 函館開発建設部 技術管理官 令和3年 (一社)港湾空港総合技術センター

企画部長

令和5年 (株)森川組 技術顧問

現在に至る



平尾 利文氏 生年月 昭和36年6月 (一財) 港湾空港総合技術センター北海道支部 副支部長(事業第一部長兼任)

昭和55年 北海道開発局

令和2年 稚内開発建設部 技術管理官

令和4年 (一財)港湾空港総合技術センター

北海道支部 調査役

令和5年 同センター 副支部長(事業第一部長兼任)

現在に至る



岡島 大二氏 生年月 昭和36年9月 堀松建設工業㈱ 札幌支店 技術顧問

昭和55年 北海道開発局 令和2年 留萌港湾事務所長

令和4年 堀松建設工業㈱札幌支店 技術顧問

現在に至る



宗文 氏 前田 生年月 昭和37年2月 (一社) 日本潜水協会 北海道支部 駐在第1部長

略歴

昭和55年 北海道開発局

令和2年 釧路開発建設部 根室港湾事務所長 令和4年 (一社) 日本潜水協会 北海道支部 駐在第1部長 現在に至る

(一社) 日本埋立浚渫業協会推薦



節俊 氏 三根 生年月 昭和34年1月 五洋建設(株) 札幌支店 シニアエキスパート総括所長

略歴 令和4年7月

昭和59年4月 五洋建設㈱ 入社 同社 札幌支店 シニアエキスパート総括所長 現在に至る

令和5年度 3本海上起重技術協会

(一社) 日本海上起重技術協会は令和5年5月12日 第37回通常総会終了後、功労者表彰式を行いました。 今年度、道内から2名表彰されました。受賞おめでとうございます。



小沢 雅彦氏 生年月 昭和45年1月 藤建設株 船長

略歴

平成元年4月 藤建設株式会社 入社 平成2年4月 移動式クレーン免許 取得 平成4年4月 クレーン付台船 ふじ6号 クレーンオペレーター 平成7年4月 起重機船 ふじFC-23 船長 平成10年12月 海上起重作業管理技士資格 取得 平成20年11月 登録海上起重基幹技能者資格 取得 平成29年4月 クレーン付台船 ふじNo.23号 船長 現在に至る



飯澤 宏至 氏 生年月 昭和39年11月 渡辺建設工業株 船団長

略歴

平成16年6月 渡辺建設工業株式会社 入社 平成21年4月 起重機船 第18花咲号 乗船 平成21年12月 海上起重作業管理技士 取得 平成22年12月 登録海上起重基幹技能者 取得 平成25年4月 起重機船 第18花咲号 船団長 現在に至る



第41回

全日本漁港建設協会表彰は漁港建設業界、漁港漁場建設事業等の発展のために多大の貢献をされた方にその業績を称 え、広く顕彰するもので、会員の代表者、従業員等が受章対象となっています。

今般、代表者及び従業員に対する表彰として、業務に精励し、成績顕著なものとして以下の方が表彰されました。 心からお慶び申し上げます。

【優良会員】



濱谷 美津男 氏 生年月 昭和36年9月 ㈱濱谷建設 代表取締役社長

略歴

昭和60年4月 村角建設(株) 入社 昭和63年5月 (株)濱谷建設 入社 平成3年6月 同社 常務取締役

平成19年1月 同社 代表取締役副社長 同社 平成24年12月 代表取締役社長

現在に至る

【優良従業員】



伊藤 修氏 生年月 昭和33年11月 藤建設㈱ 土木副部長

略歴

昭和54年 藤建設(株) 入社 土木副部長 平成27年 同社 現在に至る

h/H0'

令和5年度

全国浚渫業協会は港湾・漁港・空港・河川・湖沼におけるグラブ式浚渫工事を担っている建設業者により構成されて います。

今年度、港湾功労者として道内から1名表彰されました。受賞おめでとうございます。



田畑 満直 氏 生年月 昭和34年12月 株濱谷建設 船団長

略歴

昭和50年5月 株式会社協和潜建(現 株式会社濱谷

建設)入社 潜水士

平成27年5月 株式会社濱谷建設 船団長

現在に至る



令和4年度「土木学会北海道支部技術賞」・「全建賞」受賞 館港クルーズターミナル 整備事業

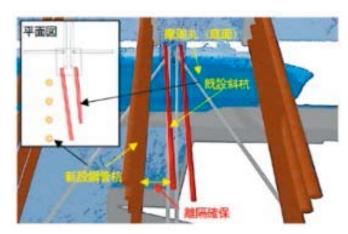
函館開発建設部 函館港湾事務所

「函館港クルーズターミナル整備事業」が、令和4年度の「土木学会北海道支部技術賞」と「全建賞」を受賞しました。 本事業は、JR函館駅に隣接した函館港若松地区にクルーズ客船が利用するふ頭を整備するものです。しかし整備に あたり、①急増するクルーズ船寄港に対応するため早期供用が必要、②函館市のシンボルである旧青函連絡船「摩周 丸」に影響を与えない近接施工、③泊地整備により発生する約40万㎡の軟弱浚渫土の有効活用が課題となりました。

そこで、①BIM/CIMによる3Dモデルを採用した設計・施工の検討を行い施工時の手戻りを回避、②3次元フレー ム解析により支承部の必要可動域を設定することで既設構造物への影響を回避、③軟弱浚渫土をカルシア改質材により 固化し、防波堤の補強材として利用、といった対応を取りました。こうした最新技術の活用や創意工夫により課題を克 服し事業を完了させたことが評価され、今回の受賞となりました。

若松地区のクルーズ客船ふ頭は、JR函館駅からわずか300mの至近距離に位置し、徒歩圏内に主要観光地が多く立地 しています。本事業の実施により、市内観光の来客数増加や旅客の滞在時間増加に寄与しています。





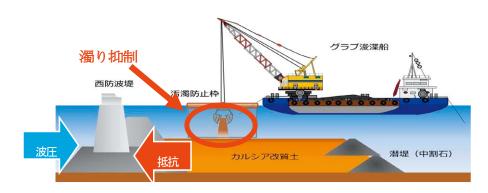
【対応①】BIM/CIMによる3D モデル

○既設岸壁へ荷重をかけない工夫

→構造を陸上アクセス部を含むL型平面形状に変更



新設桟橋 法線並行方向の動き



【対応③】軟弱浚渫土の有効活用

我が社の安全衛生管理

㈱ 菅原組 安全課長 花田



1. はじめに



弊社は、1956年(昭和31年)道南の漁業の町松前町で 起業、その後函館市に本社を移転し、創業68年目を迎え ました。

早くから「海洋土木」に着目し、1979年(昭和54年) に起重機船「第七すがわら丸(60t吊)」の建造を皮切 りに、現在はスパッド式起重機船(400 t 吊)をはじめ として、起重機船3隻、バックホウ台船1隻を所有し、"海 のすがわら"として『海洋土木 北海道No.1』を目指し、 誠実な施工・ICT施工・生産性向上により、顧客の期待 に応えるべく、日々努力を積み重ねています。

近年は、持続可能な社会実現に向けて、環境保護活動、 街づくり活動、教育文化活動、地域貢献活動等に積極的 に参加し、「SDGs」の様々な目標達成に取り組んでい ます。

また、2010年(平成22年)には、労働安全衛生マネジ メントシステムの"OHSAS18001"を取得、令和2年に ISOの労働安全衛生規格である"ISO45001"に移行し、 "ISO9001" (品質)、"ISO14001" (環境) と併せ、IMS (統 合マネージメントシステム)として企業の継続的改善を 目指しています。



2. 安全衛生方針



『安全最優先と健康の確保』

- ・働く人及び働く人の代表は、協議に参加する。
- ・労働に関係する負傷及び疾病を防止するために、安全 で健康的な労働条件を提供する。
- ・危険源を除去し、労働安全衛生リスクを低減する。
- ・働き方改革を進め、働く人が心身ともに元気で安心し て働くことのできる職場環境を形成し、健康経営を推 進する。

3. 安全衛生管理計画



【2023年度 安全目標】

- 1. 労働災害"ゼロ"
- 2. 『すがわら宣言』の定着 〈全工事の「4週8休」達成率80%以上〉
- ※『すがわら宣言』とは、働き方改革の一環で、工事 現場における、土曜休日等の休日確保を推進するた め、年度当初に社長が宣言するものであり、2017年 度から始まっている。 当初は「土曜休日毎月1回」 であったが、昨年度からは「4週8休」になって いる。



4. 安全衛生活動



(1) 安全・品質・環境大会

毎年、5月の連休明け早々に、全役職員並びに協力会 社が参加し、労働基準監督署、警察署、市役所等から講 師を招き開催しています。 その中で、安全衛生管理計 画も説明されます。「安全」が中心とはなりますが、今 年の大会では、「健康経営の推進」と題し、市役所の健 康増進課からも講話していただきました。

また、「優良協力会社賞」や「優良作業所賞」、昨年度 の会社へのヒヤリハット提出が一番多かった作業所に 「ヒヤリハットいっぱい出したで賞」の表彰を行い、職 員代表の安全宣言で、今年度の「無事故・無災害」の決 意を表明しています。





(2) 店社安全パトロール

毎月、本社安全担当者が現場の作業状況や安全設備、 安全書類や掲示板等を、独自のチェックリストを使用し 点検を行います。是正や改善の指摘があった場合は、速 やかに報告書による是正を指示し、イントラネットによ り全社に水平展開し、再発防止を行います。

(3)経営者安全パトロール

7月の「安全週間」と、10月の「労働衛生週間」の期 間中に、社長を先頭に経営首脳者によるパトロールを、 全工事を対象に行います。 各パトロール後にその場で 指示・改善事項は作業所長に伝えられ、速やかに是正さ れるようにしています。





(4) 交通安全街頭啓発運動《交通災害の防止》

毎年、夏と秋の交通安全運動期間中に、本社の地元町 内会と地元スポーツ少年団と一緒に、函館西警察署に協 力をお願いして交通安全グッズをドライバーに配布して 安全運転を呼び掛ける交通安全街頭啓発運動を行ってお り、今年で8年目となります。

創業地の松前町でも松前警察署の協力を得て、年1回 行っており、函館本社よりも長期間におよび交通安全運 動に取り組んでいます。







5. 作業所安全衛生活動

各作業所では、作業員に対する教育・訓練をそれぞれ 行っていますが、近隣の町で複数の受注工事があったた め、5工事の「合同教育訓練」を町民センターで、昨年 に続き今年も実施しました。「VR (バーチャルリアリ ティー)事故体験」や安全講話、警察署や消防署からも 講師として参加していただき、救命救急訓練の体験をし たり、熱中症の講話等、作業員も真剣に参加していました。







6. その他の活動



(1)清掃ボランティア活動

本社がある町内会では、「クリーングリーン作戦」と名 付けた清掃活動を毎月行っており、毎回参加しています。 その他にも、函館市の呼び掛けによる清掃活動や、松 前町では役場と連携して海岸清掃を行うなど、積極的に 清掃活動に参画しています。





(2) 森づくり活動

函館市内の「南かやべ森と海の会」では、苗木の育成 を促進するための草刈りや植樹活動に、約10年前から毎 年参加しており、松前町では「松前菅原昆布を育む混交 林づくり活動」と命名した、町と企業の森づくりの協定 を今年2月に締結し、今後は毎年草刈りや植樹活動を実 施し、学生も交えた木育活動も推進して行きます。

(3) 街づくり・地域貢献活動

毎月第1火曜日の夕方に、本社駐車場をキッチンカー に開放しています。今年で3年目となり、SNSでの告知 や口コミにより次第に買物客も増え、7月にはキッチン カー14台の他に、函館西警察署のパトカーも加わりまし た。パトカーの座席に子供たちを座らせて警察官になっ た気分で交通安全のPRを行うなど、地域とのつながり 創りと建設業のイメージ向上により、担い手対策にもつ なげたいと考えています。







7. むすびに



毎年のように行っていた家族同伴の"社員旅行"や"新年 会"は、コロナ禍により中止となっておりましたが、今年 は是非とも再開できることを、全社員楽しみにしています。

そのためにも、「無事故・無災害」を継続し、発注者 をはじめ地域からより信頼される企業を目指して、これ からも努力いたします。

新たな「北海道マリンビジョン」の 策定について

北海道開発局 農業水産部

「北海道マリンビジョン」は、北海道が有する我が国の水産食料供給基地としての役割を将来にわたり守り育ててい くため、地域の資源を活かしつつ、多様な主体の連携・協働により活力ある北海道の水産業や漁村の目指すべき姿を定 めた長期構想です。

現行のマリンビジョンは平成25年に策定されていますが、以降、北海道の水産業を取り巻く情勢が大きく変化してい ます。このような情勢に適切に対応するため、北海道開発局では有識者等からなる新たな北海道マリンビジョン21構想 検討委員会を設置し、見直しのための議論を進め、令和5年6月27日、新たな「北海道マリンビジョン」を策定しまし た。

1. 新たな「北海道マリンビジョン」の目指す姿

北海道水産業の成長産業化を大目標とし、①水産物の安定供給基盤・体制の確保、②環境・生態系保全とグリーン 社会の構築、③安全・安心な漁業地域づくり、④漁村地域の総合的な振興を北海道マリンビジョンの目指す姿として 位置づけました。

2. 新たな「北海道マリンビジョン」のポイント

- ・北海道水産業を取り巻く情勢変化を踏まえ、水産資源の減少や海洋環境変化への対応、水産物の品質・衛生管理の 高度化と輸出促進、増大する災害リスクへの対応力強化、漁村地域の衰退等の課題に対する対応をまとめました。
- ・養殖生産拠点の形成、スマート水産業の推進、カーボンニュートラル及び海業振興といった新たな課題への対応も 反映しています。
- ・推進に当たり、北海道を5つの海域に分類し、資源・環境、生産・流通・加工、地域振興の観点から、近年の情勢 変化や課題、地域の特色を踏まえた将来像を掲げました。

3. 参考資料

新たな「北海道マリンビジョン」の概要については、添付資料をご参照ください。なお、本文については北海道開 発局のホームページに掲載しております。

https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/suisan/ud49g7000000ny1b.html

北海道マリンビジョンの概要

(添付資料)

●現計画の達成状況と北海道水産業を取り巻く<mark>情勢変化</mark>を踏まえ、<mark>水産資源の減少や海洋環境変化</mark>への対応、水産物の品質・ 衛生管理の高度化と輸出促進、増大する災害リスクへの対応力強化、漁村地域の衰退への対応といった課題に対応
●養殖生産拠点の形成、スマート水産業の推進、カーポンニュートラル、海業振興といった新たな課題にも対応

北海道水産業の役割

北海道は水揚量**99万トン**(R2値,全国水揚量の**24%**)、生産額 **2,021億円**(R2値,全国生産額の**17%**)、食用魚介類の自給率は 351%であり、わが国最大の水産物供給基地

北海道水産業を取り巻く情勢変化

- ○漁業資源の減少、磯焼けなどの
 漁場環境の悪化
- ○水産流涌滴正化法の施行
- ○食品衛生法の改正に伴うHACCP手法による水産物の品質・ 衛生管理の義務化
- ○**農林水産物・食品の輸出額**を2030年までに5兆円、水産物の 輸出額を1.2兆円とする目標
- 〇国際的な目標であるSDGs(持続可能な開発目標)が採択
- ○気候変動に伴う地球温暖化と災害リスク増大 ○新型コロナウイルス感染拡大を踏まえた新たな生活様式

北海道水産業の課題

- (1)**水産資源**の適切な管理と**海域利用秩序**の確立 (2)**養殖生産体制**の構築
- (3)豊かな生態系を目指した水産環境の保全・創出
- (4)**循環型社会**への対応と**グリーン化**の推進
- (5)産地における**生産・流通機能の強化**、水産物の需要拡大
- (6)水産業のデジタル化・スマート化
- (7)**水産物輸出**の拡大
- (8)**増大する災害リスク**への対応力強化
- (9) [海棠]振興による漁村地域の活性化 (10)漁村地域を支える人材の育成
- (11)試験研究体制の強化

北海道マリンビジョンの目指す姿

北海道水産業の成長産業化

- ◆水産物の安定供給
- 1) 水産物の安定供給基盤・体制の確保
- 2) 環境・生態系保全とグリーン社会の構築
- 3) 安全・安心な漁業地域づくり ◆水産業の健全な発展
 - 4) 漁村地域の総合的な振興

漁港・漁場の将来像

- 〇養殖生産拠点
- 〇高度品質衛生管理•輸出促進拠点
- 〇環境・生態系保全拠点
- 〇カーボンニュートラル・リサイクル拠点
- O防災·減災拠点
- 〇海業振興拠点

技術開発と調査研究

- ○咨源管理•增養殖技術
- 〇品質衛生管理・加工流涌技術
- 〇環境·生態系保全技術
- 〇カーボンニュートラル技術
- 〇リサイクル技術
- O防災·減災技術

地域の将来像

北海道内を「日本海北部地域」、「日本海南部地域」、「エリモ以西太平洋地域」、 「エリモ以東太平洋地域」、「オホーツク海地域」の5海域に分類し、"資源・環境"、"生産・流通・加工"、"地域振興"の観点で近年の情勢変化や課題、地域の特色を踏まえ た将来像を構築

マリンビジョンの実現に向けて

地域マリンビジョン推進母体の体制強化、PDCAサイクルに基づく取組の推進、多様な連携・協働の推進、効果的な情報発信、取組を支える基盤整備と支援制 度の活用、地域マリンビジョン全体の底上げ

北海道水産業の主な課題 (1)水産資源の適切な管理と海域利用秩序の確立 〇新たな資源管理システムへの対応、水産流通適正化法に基づく密漁取締体制の強化等 (2)養殖生産体制の構築 〇水産政策の改革を踏まえたマーケットインの考え方に基づく養殖業の成長産業化等 (3)豊かな生態系を目指した水産環境の保全・創出 OSDGsへの対応、マイクロプラスチック問題への対応、日本海側を中心とする磯焼けへの対応等 (4)循環型社会への対応とグリーン化の推進 〇カーボンニュートラル(洋上風力発電、雪冷熱エネルギー、ブルーカーボン)への対応等 (5)産地における生産・流通機能の強化、水産物の 〇食品衛生法の改正に伴うHACCP手法による水産物の品質・衛生管理義務化への対応等 (6)水産業のデジタル化・スマート化 OICT技術を活用した資源評価・資源管理、漁労作業の自動化・省力化・効率化等 (7)水産物輸出の拡大 ○輸出相手国の品質・衛生管理基準への対応、漁獲~加工段階まで一貫した衛生管理体制等 (8) 増大する災害リスクへの対応力強化 ○日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に伴う巨大地震・津波や災害リスク増大への対応等 (9)「海業」振興による漁村地域の活性化 ○海業振興による漁村地域の活性化、漁港機能の集約化・再編整備、効果的な情報発信等 (10)漁村地域を支える人材の育成 ○取組を担う人材の確保と育成や、地域活性化の推進母体、中間支援組織の育成等 (11)試験研究体制の強化 ○漁業協同組合を始めとした地域関係者と、大学・研究所・水産試験場との連携等

北海道マリンビジョンの目指す姿

水産物の安定供給

水産物の安定供給 基盤・体制の確保

- ●持続的漁業生産体制の 確立
- ●養殖生産拠点の形成
- ●水産流通の適正化
- ●スマート水産業の推進
- ●高度な品質・衛生管理体 制と多様な流通体制の構築
- ●水産物輸出の更なる推 進

環境・生態系保全と グリーン社会の構築

- ●沿岸海域の環境・生 態系保全活動の広がり
- ●漁港・漁村地域におけ るカーボンニュートラル の推進
- ●水産系廃棄物等のリ サイクルの推進

水産業の健全な発展

安全安心な 漁業地域づくり

- ●増大する災害リスクに 対応した漁港機能の強化
- ●ハード・ソフトが一体と
- なった避難体制の構築
- ●災害時における水産物 流通機能の確保

漁村地域の 総合的な振興

- ●海業振興による地域 資源を活かした新産業 の創出
- ●地域振興を担う人づく U
- ●多面的機能の発揮
- ●多様な連携による地 域振興

地域の将来像					
	資源•環境	生産・流通・加工	地域振興		
日本海北部	○漁場整備、藻場造成による資源増大と持続可能な漁業展開	〇ホタテガイ種苗の安定供 給とブランド化による多様 な水産物の輸出拡大	〇漁業·水産業と多様な連 携による地域の活性化		
日本海南部	〇再生可能エネルギーと 藻場造成によるカーボン ニュートラルの実現	○養殖生産拠点の形成によ る安定生産体制の構築と 漁業所得の向上	〇多様な地域資源を活かし た海業振興		
エリモ以西	○資源管理の徹底と種苗 生産・放流による安定生 産体制の構築	○蓄養殖展開と品質・衛生 管理体制構築によるブラン ド化推進と輸出拡大	〇自然·文化·産業遺産と連 携した交流人口の拡大		
エリモ以東	○資源管理と増養殖展開 による生産拡大と藻場 造成によるブルーカーボ ンへの寄与	〇高度な品質・衛生管理体 制とブランド化による輸出 拡大	〇安全・安心な漁業地域づく りと多様な体験コンテンツ による海業振興		
オホーツク	〇環境との調和を重視したサケ・マス類、ホタテガイ、カキ等の安定生産	OICT、ロボットを活用した効率的生産体制の構築と更なる輸出拡大	〇豊かな自然環境や漁港施設を活用した多様な観光メニューの開発		

◎事務局だより◎

◎行 事

1. 第40回日本港湾空港建設協会連合会 総会

月日:令和5年5月10日

場所:東京都

2. 第1回 広報委員会

月日:令和5年6月22日

場所:ホテル札幌ガーデンパレス

内容:令和5年度会報発刊計画の審議、会報(109号)

掲載内容の審議

3. 第1回 技術委員会

月日:令和5年6月29日

場所:ホテル札幌ガーデンパレス

内容:令和5年度活動方針、技術力向上に向けた取

組ほか

4. 北海道開発局港湾空港関係功労者表彰祝賀会

月日:令和5年7月25日

場所:ホテル札幌ガーデンパレス

5. 日本港湾空港建設協会連合会セミナー

月日:令和5年8月24日

場所:釧路市

内容:港湾事業の実施に向けた取組ほか

◎業界だより◎

◎会員代表者の交代

●株式会社 中田組

代表取締役社長 中田 有介 (令和5年5月)

●株式会社 森川組

代表取締役社長 森川 明紀 (令和5年6月)

◎広報委員会だより◎

令和5年9月現在の広報委員は以下のとおりです。

委 員 長	小野寺 勇	東亜建設工業㈱
副委員長	古田 圭也	東洋建設(株)
(部会長)	宮部 秀一	㈱菅原組
(副部会長)	上 野 強	釧石工業(株)
	阿 部 勝	五洋建設(株)
	石川 洋一	あおみ建設(株)
	今 林 弘	菱中建設(株)
	岡元 節雄	(株)不動テトラ
	小 玉 茂 義	東亜建設工業㈱
	相 馬 洋	近藤工業㈱
	髙木 哲夫	萩原建設工業(株)
	千 葉 不二夫	勇建設(株)

※広報委員会からのお願い

- 1. 新造船 (機械・装置含む) の紹介
- 2. 注目される工事の着工、完成
- 3. 工事現場の紹介
- 4. 各地域の技術研究会・イメージアップ事業

等のご投稿をお待ちしております。



物揚場 (-4.0m) ホタテ水揚げ状況

「写真提供: 紋別港湾事務所」

「写真提供:(株)西村組」





「写真提供: 紋別市役所港湾課」

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.109

発行年月 令和5年9月

発 行 北海道港湾空港建設協会 会長 藤田 幸洋 札幌市北区北9条西3丁目10-1(小田ビル4階) TEL(011)707-4731 FAX(011)707-4733

http://www.hokkaido-kkk.jp Email:hkkk@h4.dion.ne.jp

編 集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会

編集責任者 宮部 秀一

印 刷 ㈱須田製版